

社会環境

クリーンカンパニーをめざして Vol.1

報告書 2007

Social & Environmental Report



【ホッキョクグマ（異名：シロクマ）】

レッドリスト (IUCN) カテゴリー分類 / 絶滅危惧Ⅱ類 (危急種) ▶ 絶滅の危険が増大している種

北極圏には、2万～2万5,000頭のホッキョクグマが生息しているといわれていますが、ここ数年の地球温暖化によりその数は減少し、絶滅する可能性があります。

ぺんてるは、世界自然保護基金 (WWF) を通じて自然保護活動 (野生生物の保護や地球温暖化防止の活動) に、商品の売り上げの一部を協賛しています。



文具を通じて文化を育成し、 社会から尊敬される企業をめざします



「書く」「描く」文化を育成

ぺんてるの創業以来の社訓の中に「社業を通じて国家社会への貢献」という一節があり、「文具を通じて文化を育成する」ことが、現在でもぺんてるの基本的な考え方となっています。

まず、数々の画期的な製品を世に送り出し続けることで、人々の「書く」「描く」文化の育成に貢献してきました。1960年発売の黒鉛と樹脂を原料にしたシャープペンシル用替芯にはじまり、世界で初めてのノック式シャープペンシル、アメリカで爆発的にヒットした「ぺんてるサインペン」、世界初の水性インキボールペン「ボールぺんてる」、獣毛を使わない「ぺんてる筆」、世界初のペンタッチ式修正液、中性インキボールペン「ハイブリッド」などです。最近では、第4の支点によりこれまでにない握りやすさと疲れにくさを実現した「エルゴノミックス ウインググリップ」や“くっきり・きれいな”筆跡の極細ゲルボールペン「スリッチ」など、どこにもなかった独創的な新製品で筆記具の未来を提案しています。

社会や環境に配慮した企業活動

また、ぺんてるは企業活動全般にわたり、品質管理、環境保護、製品安全性、コンプライアンス、社会貢献などの社会的責任を果たすべく取り組んでいます。

品質においては、全社的に総合的品質管理活動（TQM）を展開しています。40年近く全員参加のQCサークル活動を推進しており、全日

「社訓」、「企業行動指針」に基づき、 持続可能な社会づくりを推進します

〔基本理念〕

ぺんてるは、1996年に「ぺんてる環境綱領」を策定し、地球環境保全に取り組む姿勢を明確にし、あらゆる企業活動にそれを反映させてきました。

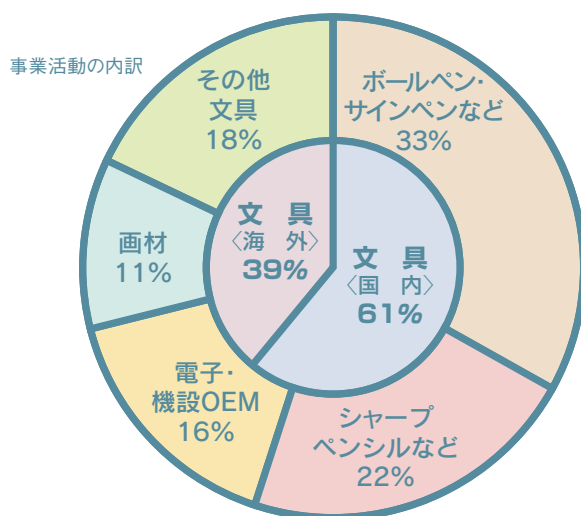
2005年、企業の社会的責任を果たし、持続可能な企業、社会の構築のため、創業以来の「社訓」をベースとした「ぺんてる企業行動指針」を策定しました。

この指針を全社員に周知徹底し、持続可能な社会づくりを推進します。

〔事業活動〕

ぺんてるといえば、くれよんのイメージが強いと思います。しかしながら現在、くれよんを含む画材の売り上げは全体の11%に過ぎません。

当社の事業分野は、電子機器などの製造販売、産業用ロボット・産業用自動組立機・大型インクジェットプリンター・精密ハンドプレスなどの製造販売、さらに化粧品、文具事務用品などのOEM関連製品の製造販売にまで広がっています。



本大会にも幾度となく出場しています。1976年には文具業界で初めて品質管理の最高栄誉であるデミング賞を受賞し、1995年には国内文具メーカーで初めて国内工場がISO9001認証を取得し、その後アメリカ、フランス、台湾、中国の各工場でも認証取得いたしました。ISO基準に適合しているというだけではない、それ以上の、ぺんてるでしか成し得ない「ぺんてるならではの品質」の実現をめざしています。

環境保護においては、国内工場をはじめ、アメリカ、台湾の各工場でもISO14001の認証を取得し、エネルギー、化学物質や廃棄物の削減と管理をめざしています。日本国内では販売商品の約50%がエコマーク商品、グリーン購入法適合商品となっています。海外でも他社に先駆けリサイクル素材を使用した環境にやさしい「リサイクロロジー」製品群を市場導入し、環境保全を提案しています。

製品安全性においては、日本でのJIS基準はもちろんのこと、日本よりはるかに厳しいEUのRoHS指令やCE基準などをクリアする品質設計を行い、お客様に安心してお使いいただける製品作りを行っています。例えば、ミヒラーズトン（人体に有害とされている物質）を全く含有しない油性ボールペインキの開発や、フェノール（刺激臭が強く有害とされている物質）を含まず臭いのない「エフ水彩絵の具」の開発などは、世界に先駆けた安全性への対応であるといえます。

コンプライアンスにおいては、「ぺんてる企業指針」を策定し、そのマニュアルに基づき社員に対する教育や内部監査制度の充実を図っています。

グローバルな持続発展をめざして

その他にもぺんてるは、世界自然保護基金(WWF)と協力した小学校向け環境教材『ホッキョクグマが泣いている...』の制作・発刊、全国各地で開催される写生大会への協賛など、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

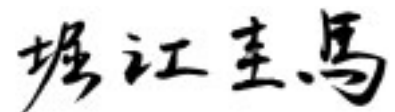
海外においても、イギリスの乳がん撲滅キャンペーン活動への参画や、アメリカの知的・身体的障害者団体への援助などを積極的に行っています。特に、大阪万博以来37回継続している「世界児童画展」は、世界40カ国から20万点以上の絵の応募があり、「描く」ことを通じて世界の子どもの情操や感性の涵養に大きく貢献しています。

ぺんてるのコーポレートステートメント“Spirit of Wonder”は、「ぺんてるは世界中のお客様に愛用され続ける、“ワクワク、ドキドキ”するような楽しい製品を提供していく創造力あふれる会社であり続けること、またそうした製品を生み出していく気持ちを私たちぺんてる社員が持ち続けること」を意味しています。

ぺんてるは、これからも「書く」「描く」ことを通じて文化を育成し、社会から尊敬される企業をめざした活動を推進してまいります。

2007年4月

ぺんてる株式会社
代表取締役社長



企業行動指針

- 広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を公正に開示します。
- 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動します。
- 品質、環境、安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して社会的に有用な製品を開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を高めていきます。
- 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行います。
- 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行うこと。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
- 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。

社訓

- 一 社業を通じて国家社会への貢献
- 一 製品を通じて全世界よりの信用の蓄積
- 一 相手の気持になって行動する感謝と奉仕の精神
- 一 アイディアを尊ぶ研究的態度
- 一 適正利潤と冗費節約による会社、従業員の繁栄
- 一 正しい人格と愛される人柄の培養

グローバル企業として 社会から尊敬される企業をめざします



①イギリスべんて
マーケティング部長
Mrs. Wendy Vicker
べんては、デザインの良さと独創的の製品でイギリスの文具業界をリードしています。



②ドイツべんて
経理課係長
Mr. Jan Michelsen
仕事を楽しみ、標準作業はもちろん、新たな管理方法や職務分析に興味があります。



⑥ポーランドべんて
販売・顧客担当
Ms. Dorota Górska
販売、テレマーケティングなどの営業支援を通じて、常にお客様満足の上向上に努めています。



⑩イタリアべんて
販売部長
Mr. Paolo Rulfin
お客様との商談の際、常にべんての製品の信頼性に助けられており、製品の特徴をお客様に説明するときは、私にとって最も充実した時間です。



⑨天津べんて
中国国内出荷管理・総務担当
金 混さん
天津工場の製品を積んだトラックを送り出すたび、高品質の製品が中国のお客様に届くことの喜びを感じます。



⑧香港べんて
販売課長
Mr. Yip Yeung(Nico)
競争の激しい香港において、競合他社に負けない販促企画でマーケットシェアのアップに取り組んでいます。



③ユーロべんて(フランス)
営業部長
Mr. Eric Allain
日々前進をモットーに、べんての製品のブランド力と品質で販売活動を推進しています。



④南アフリカべんて
マーケティング コーディネーター
Ms. Nomsa Maluka
マーケティング部で働いていて、各種メディアにべんての製品を紹介するときはいつも興奮します。



⑦上海べんて
企画部係長
夏 静さん
べんての品質、デザイン、文具業界での地位は、お客様を前にして私に自信と誇りを持たせてくれます。



⑧マレーシアべんて
ストアマネージャー
Mr. Baharuddin Bin Johar
現場の協力で、お客様に早く正確に製品をお届けし、一日の目標を達成したときは、何よりもうれしいですね。

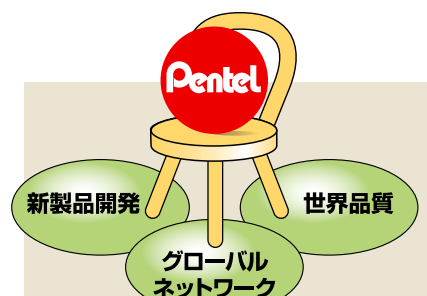


⑪台湾べんて
量販課班長
黄 笠益さん
“信念堅持、真面目に働く”との信条で、多品種量販店に高品質の新製品を紹介し、商品定着を図っています。

会社概要

社名：べんて株式会社 PENTEL CO.,LTD.
本社：〒103-8538 東京都中央区日本橋小網町7番2号
TEL.03-3667-3333 (代表)
創立：1946年(昭和21年)3月 資本金：450百万円
売上高：43,116百万円(2005年度・連結)
経常利益：695百万円(2005年度)
従業員数：875人(2006年4月) ※臨時社員を除く

事業内容：1.文具事務用品(画材、筆記具など)の製造販売
2.電子機器(タッチパネル、デジタイザー、電子ペンなど)の製造販売(電子機器事業部)
3.産業用ロボット、産業用自動組立機、射出成型用精密金型、精密ハンドプレスなどの製造販売(機設部)
4.OEM関連製品(化粧品部門、文具事務用品、医療機器など)の製造販売(OEM事業部)



目次

いつもお客様とともに 5

社会報告

- 文具を通じて文化の育成 7
- 環境教育プログラム 8
- 地域とともに 9
- コミュニケーション 11
- コンプライアンス活動 13
- お客様満足度向上活動 14
- 安全で働きやすい職場づくり 15

環境報告

- 環境マネジメント体制 17
- 環境取り組み報告 19
- 環境に配慮した商品開発 21
- 国内外のエコファクトリーへの取り組み 23

資料編

- 世界の文具をリードするぺんてる 25
- ぺんてるの歴史と社会・環境活動のあゆみ 26

編集にあたって

・昨年版まで表紙で使われていたスローガンを変更しました。これは、ぺんてるが環境への取り組みだけでなく、CSR(企業の社会的責任)やサステナブル(持続的発展)も重要視してきた変化に対応できるよう「環境のみをイメージする言葉」"グリーン(Green)"から「公明正大、清潔などをイメージする」"クリーン(Clean)"へと変化・成長させました。

・環境関連データ類は原則2005年度までの情報を収集期間とし、イベント・トピックス的な情報は2006年度までの情報を取り入れました。

・本報告書を2007年度にお使いいただくために「社会環境報告書2007」としました。



世界の人に愛される Pentel

イギリスで最も権威のある英語辞書THE CHAMBERS DICTIONARYに社名 "Pentel" がサインペンやボールペンの総称として掲載されました。

⑫カナダぺんてる
倉庫課長
Mr. Adam Tchorzewski
倉庫内をきちんと整理し、きれいな商品をお届けすることで、お客様に喜んでいただけるよう努めています。

⑬ぺんてるオブアメリカ
物流・工程担当
Mr. Shawn Dunn
在庫の大幅低減や新物流での効率化推進タスクに参画し、たいへんうれしく誇りに思っています。



⑮ラテンぺんてる
経理・受付担当
Ms. Yolanda Navarro
効率性の良い仕事と責任感が心がけて、お客様満足を得るために質の高いサービスを提供しています。

新製品開発

他人のまねでなく、マーケットインの姿勢で世の中にないもので数々の新製品を開発しています。

世界品質

優れた品質の製品であれば、国境や人種・宗教に関係なく世界中のお客様にお使いいただけるとの信念のもと、世界品質の製品を作り続けています。その基礎になるのは品質管理活動です。

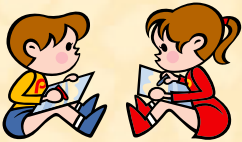
グローバルネットワーク

1964年アメリカに海外販売会社を設立、新製品の世界展開に応じてグローバルネットワークを構築しています。

ぺんてるはいつも ●

お客様の人生の大切な場

心を育む▶▶▶▶▶



ぺんてるの子ども用商品のマスコット「ペベとルル」はより親しみやすく、また、安心してお使いいただける、シンボルキャラクターです。

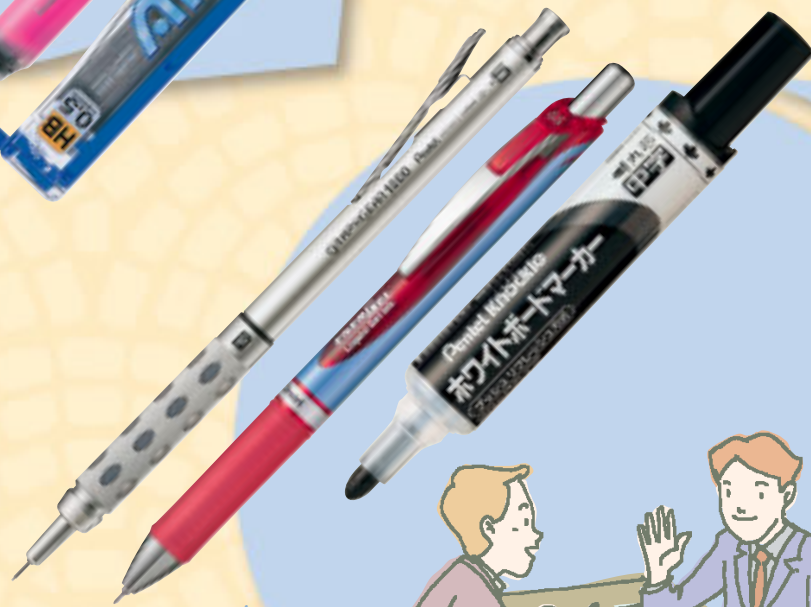


いきいき、のびのびをお手伝い▶▶▶▶▶

面を、ともに創ります。

「知る」「調べる」「考える」を充実 ▶▶▶▶

潤いある充実した生活を演出 ▶▶▶▶



迅速、正確、そして楽しさを提供 ▶▶▶▶

世界のぺんてるの仲間とともに

2005年に世界中のぺんてるの社員に向けて「PENTEL BRAND VISION 2005」を配布しました。この中で、地球環境や環境汚染予防活動などにも取り組むことを「ぺんてるの経営理念」として表明しています。

今後この理念実現のために、ISO14001認証取得などの活動を日本のみならずグローバルに展開します。



ぺんてるブランドビジョン2005

文具を通じて文化の育成

児童画展覧会や写生大会への協賛を通して、子どもたちの情操、感性の育成に力を入れています。

世界児童画展

1970年大阪万国博覧会会場で開催された第1回以来、財団法人 美育文化協会主催の「世界児童画展」に協賛しています。同展には世界40カ国、20万点を超える作品の応募があります。

ぺんてるの協力で20万点を超えた応募作

私ども財団法人 美育文化協会が主催しております「世界児童画展」は、子どもたちの感性と理性の調和のとれた成長を願い、造形文化への支援と、国際相互理解を目的として開催さ



れ、2006年で第36回となりました。

特に、海外応募窓口であるぺんてる・海外マーケティング課を通じて各国に応募依頼し、ぺんてるの海外販売に「世界児童画展」のPRを依頼しました。

この結果、海外からの応募が前回比1万点増となり、国内と合わせ20万点を超える応募点数となりました。

表彰式では総理大臣賞をはじめ、各種特別賞に輝いたタイ国の児童をはじめ、受賞児童及び保護者の方の笑顔がとても素敵でした。

今回の優秀作品も後援団体である読売新聞社により各地域で掲載され、受賞児童の喜びの声を全国に響きわたらせることができました。これからも日本の将来を担っていく子どもたちに良い機会を与え続けるよう、関係者の皆様とともに努めていきたいと存じます。

財団法人 美育文化協会
事務局長 島崎 正明



写生会

ぺんてるは毎年、全国各地で開催される写生会に協賛・協力をしています。2006年度は「山下公園ファミリー写生大会」（横浜市PTA連絡協議会主催）をはじめ、60カ所以上の実績をあげました。

写生会ってどのように開催されるの？

まず、写生会の開催をチェック。新聞の文化面や市町村の広報誌や近所の文房具屋さんの店頭ポスターなどで告知されたりします。申し込みはほとんど当日、現地でOKです。年齢制限もありません。参加費はほとんどの会場で無料です。画用紙は配布される場合が多く、持ち物は画材道具と敷物ぐらいです。当日、会場受付を済ませたら、主催者からの注意事項を確認して、後は自由に好きな場所で描くだけ。画材道具を現地で販売している場合もあります。

熱心に画用紙に向かう子、昼寝をしているお父さんを尻目に公園を走り回る子、早々にお弁当を広げている家族など、楽しみ方は人それぞれです。学校の授業ではないのだから、自由に、気軽に楽しめるのが魅力です。完成した作品を提出して写生会は終了（山下公園の写生会では提出時に希望者限定で地元の美術系出身の校長先生から講評してもらえます。行列ができるほど）。

提出作品は審査のうえ各賞が決定されます。駅や市役所など所定の場所に掲示されます。各入賞者に図書カード、画材などの副賞を進呈する写生会も多いようです。



ギネスに登録されました

2005年3月の発案にはじまり、その年の10月1日に創業60周年の記念イベントとして、幕張メッセ・アリーナにおいて、「世界一長い絵」に全社員参加で挑戦し、3,839.14mを達成しました。12月13日と14日の2日間、その作品を24時間展示・公開し、認定基準をクリア。専門家によって、絵の長さの精密測定が実施されました。そして2006年6月末に、念願の認定書を受領しました。



「世界一長い絵」の認定書



彩の国くまがやドームで絵の展示、公開

環境教育プログラム

「社業を通じて国家社会への貢献」を社訓として掲げています。小学校の「総合的な学習の時間」のための環境教育プログラムも、社訓の考えをもとにスタートしました。

子どもたちに環境保護の大切さを教える

絶滅の危機にある野生生物の保護や地球全体の自然環境保全に取り組んでいる世界自然保護基金(WWF)の活動に、WWFのマークをつけたくれよんなどの製品を通じて応援・協賛し、このマークをつけた商品の売り上げの一部を自然保護活動に還元しています。

今回このような活動が縁で、WWFの協力のもと、環境・

社会活動と次世代育成活動が連携した環境教育プログラム、地球温暖化をテーマにした小学4～6年の「総合的な学習の時間」向け教材の『ホッキョクグマが泣いている...』を作成しました。環境教育プログラムでは、1年間を通じて3つの活動を実施します。

「地球温暖化」をテーマにした小学4～6年生向け環境教育プログラム

『ホッキョクグマが泣いている...』

1 「総合的な学習の時間」向け教材の『ホッキョクグマが泣いている...』

2006年4月より無料配布を開始。配布は全国の小学校・学年・学級を単位とし、電話またはFAXで申し込みを受け付けました。本教材は、「地球温暖化」の問題について子どもたちが親しみやすい「ホッキョクグマ」という動物を通して学んでもらうことを目的としています。佐島群己(さしまともみ)東京学芸大学名誉教授・帝京短期大学客員教授をはじめとする学識経験者の方々の協力、財団法人 世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)の監修を得て作成したもので、「児童用読本」と「教師用」があります。本教材では、地球環境の保護と温暖化防止を“子どもたちの身近な出来事”としてとらえられるような学習が、5時間にわたって展開できるように構成されています。

ホッキョクグマの生息域である北極の氷が、地球温暖化によるとみられる影響で年々減少しています。このまま温暖化が進むと、2050年には1900年代の80%になるという予想もあります。本教材は、子どもたちもよく知っているホッキョクグマに焦点をあてることで、温暖化の深刻さをより身近にとらえさせ、それを防ぐ方法を考え、実践していくという構成を特長としています。



総合学習教材
『ホッキョクグマが泣いている...』

今回の実績

- 参加していただいた小学校数:263校
- 配布した教材数:32,996部
- 「ローラさんへ手紙を書こう! コンクール」応募作品数:1,734通



環境教育フォーラム

2 「ローラさんへ手紙を書こう! コンクール」の実施

「北極地方に住むローラからの手紙」に対して、地球温暖化を防止するために自分たちができることや感想を書いた返事の手紙をコンクール形式で募集する「ローラさんへ手紙を書こう! コンクール」を実施しました。

2006年12月31日に応募を締め切り、優秀作品候補6点と奨励賞、特別奨励賞を当社ホームページ上で2月中旬に発表しました。審査は、C.W.ニコル氏(作家、アフアンの森財団理事長)をはじめとする有識者の方々によって行われました。

3 環境教育フォーラム「ホッキョクグマが泣いている...」の開催

環境教育プログラムの第3弾では、「ローラさんへ手紙を書こう! コンクール」の優秀作品候補の子どもたちによる発表・審査と表彰式のほか、コンクールの審査員によるパネルディスカッションなどを内容とする環境教育フォーラム「ホッキョクグマが泣いている...」を、日本科学未来館で2007年2月18日に開催しました。

この教材を通して、子どもたちが「地球温暖化」という世界規模の問題に関心をもち身近に感じることで、地球温暖化防止のための実践を行ってくれることを願っています。

詳細は当社ホームページをご参照ください。

<http://www.pentel.co.jp/sogo-gakushu/index.html>

地域とともに

地域の皆様と交流を深める活動を推進しています。

地域の先生

オフィスや工場近隣の小・中学校で、文具を通じて子どもたちや地域の皆様との交流を図るために、社員が「先生」として授業を受け持っています。最近、ご要望により小学校の先生への「画材基礎知識セミナー」も開催しています。

絵の具はどうやってできるのかな？

● 小学校の家庭教育学級で「先生」

画材のプロと自他ともに認める生産技術室長・岡井が、茨城工場のある小美玉市立玉里小学校の要請で“絵の具”について授業をしました。これは、小学校で行われている家庭教育学級の一環として実施されたものです。

● 授業の内容

小学生にもわかるように噛み砕いて、絵の具の歴史、工場でどのように作られるかを話した後、身の回りの材料を使って絵の具作りを体験し、その絵の具を使って絵を描きました。

● 生徒などの反応

自分で絵の具を作る体験は、生徒のみならず一緒に参加した父兄にも好評でした。生徒からのお礼の手紙には「大きくなったらぺんてるに入社して、絵の具を作りたい」などと岡井室長を感激させたものもありました。



岡井室長の授業風景
〔2005年12月8日 玉里小学校〕



自分で作った絵の具で
絵を描こう

納涼祭

毎年、吉川工場、茨城工場においてはその土地の市長をはじめ、地域の消防団の協力を得て、盛大に納涼祭を行っています。その参加者は、吉川工場で約1,300人、茨城工場で約2,000人です。

手作りイベントへのこだわり

ぺんてる茨城工場は毎年8月上旬に地域と自然とのふれあいをテーマに茨城工場一丸となり「納涼祭」を開催しています。

手作りにこだわり、絵の具やクレヨンによる手書きの提灯・ポスター、芝生広場中央に檣の設営、駐車場整備及び警備、分別ゴミ箱の設置などに取り組み、来場される方々が楽しく安全に過ごせる会場設営に努めています。

また、イベントは地元婦人会によるダンス大会、お子様参加のクイズ大会、大道芸人によるジャグリングやパントマイム、ときにはタレントのショータイムなどと盛りだくさんです。特に親子の絆を深めることを目的とした“親子の絵画大会”は「ぺんてるならでは」のイベントとなっています。



「ペペとルル」

画材マスコットキャラクターの「ペペとルル」のように、いつも地域の方々と向かい合っていきたいと思っています。



納涼祭委員の町田



茨城工場 納涼祭



吉川工場 納涼祭

ローカル・アプローチ

世界20カ国に販売会社網を築いてきたぺんてるは、それらの国で企業パートナーなどとして各種行事に参加しています。

1. イギリスでの取り組み — イギリスぺんてる

イギリスでは年間で女性約13,000人、男性約90人が乳がんが原因で亡くなっており、大きな関心事となっています。ぺんてるは乳がん撲滅の研究・啓蒙活動をしている団体である「乳がんキャンペーン(BCC)」に2006年1月から企業パートナーとして参加しています。



協賛しているBCCのマーク



商品名：Line Style(ユーロぺんてる製：フランス)
乳がんキャンペーンカラーのピンク軸ボールペンの販売を



イギリスぺんてるが企業協賛したときの地元新聞の記事

2. アメリカでの取り組み — ペンてるオブアメリカ

知的障害者財団の一部門であるデザートバリー工業 (DVI) は、常時約300人の障害のある人々に働く場を提供するとともに、社会復帰のサポートをしています。彼らに達成感のある仕事、例えばe-コマースサイトを共同で立ち上げ、顧客注文に対して訓練を受けた障害者メンバーが包装から出荷までの全作業を行う場を提供するとともに、財政的側面からの貢献を果たしています。



e-コマースサイトの担当メンバー



デザートバリー工業のメンバー

3. 日本での取り組み

● 吉川工場、茨城工場、草加工場での取り組み

年に数回、工場内だけでなく、周辺の道路や駅などの施設周辺の清掃を行っています。

● 本社での取り組み

日本橋小網町に鎮座して540年の古社である小網神社の、5年に1回の神幸大祭(2006年5月25日と27日)に参加しました。

・25日は東京支社、オリエントエンタープライズの社員たちが、今年新調された二之宮神輿を担ぎ、小網町を練り歩きました。

・27日は草加工場、吉川工場、そして本社の社員たち40人ほどが、小雨の中それを吹き飛ばさんばかりの掛け声で練り歩きました。



茨城工場での清掃風景。近くの駅(無人駅)の清掃



吉川工場での清掃風景。工場脇を走る国道の歩道や土手の清掃



本社をバックに蛸殻町交差点を練り歩く

コミュニケーション

社会から信頼される企業をめざし、情報公開やイベントなどを通じて、さまざまなステークホルダーの方々とのコミュニケーション活動に取り組んでいます。

月刊ぺんてる

ぺんてるをより身近に楽しめる情報満載のマンスリー・マガジンです。メルマガ登録で毎月配信されます。

お客様から愛読されています

当社の活動が、製品だけでなく各種行事などを通して紹介されています。クリックアンケート結果は、会話の潤滑油としても使える面白い内容がいっぱいです。

《2007年2月時点の紹介ページ》



※ 詳しくは下記のアドレスでご確認ください。

<http://www.pentel.co.jp/pentel-town/monthly-pentel/index.html>

もったいない=MOTTAINAI

ワンガリ・マータイさんは、アフリカで木を植える活動「グリーンベルト運動」でノーベル平和賞を受賞したケニア共和国の環境副大臣です。2005年2月に来日したとき、日本ではものを大切に、環境保護が進んでいるのは「もったいない」の気持ちがあるからだと思い、地球環境を守る共通語として「MOTTAINAI」を提唱しています。

吉川工場、毎日新聞社賞受賞

吉川工場業務課・對馬が、毎日新聞社・マガジンハウス社共同企画「私の、もったいない」募集キャンペーンで毎日新聞社賞を受賞しました。

受賞作品の内容

食堂担当の對馬が、QCサークル活動*のなかで職場の同僚と「廃棄食材でもう一品!」というテーマで取り組んだものです。

サークル名は「よろずや」。いつも同僚と「もったいない」と話していた食堂の「だしをとった後の昆布」を、再利用できないか工夫を重ねて、「もう一品」の惣菜として完成しました。

このたびの受賞は、2006年11月15日日比谷公会堂で開催された「全日本選抜QCサークル大会」にて特別発表されました。

※ QCサークル活動の内容については15ページを参照ください。



QCサークルの仲間の吉田と表彰会場で。左が對馬



Spirit of Wonder (スピリット オブ ワンダー)

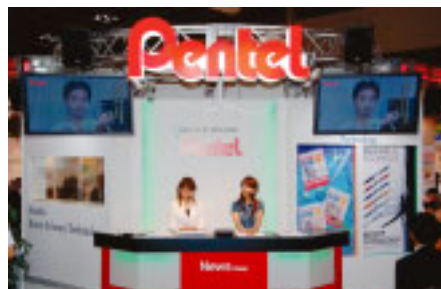
“ワクワク、ドキドキ”する商品をお客様のお手元に！——ぺんてるは、さまざまな展示会を通じて、新製品をご紹介しています。2006年は、「第17回国際文具・紙製品展 (ISOT)」をはじめ全国各地で開催された展示会などで発表し、ご好評をいただきました。

(社) 全日本文具協会が特別後援するアジア最大級の文具見本市

「第17回国際文具・紙製品展 (ISOT)」が、2006年7月6日(木)～8日(土)に東京ビッグサイトで開催されました。会場には、国内外の文具メーカー約850社が一堂に会し、その商品が展示されました。

このISOTに焦点をあわせて新製品を発表するメーカーも多く、いち早く新製品をチェックできる場として、バイヤーやメーカー関係者だけでなく工業デザイナー、ファッション誌や情報誌の編集者、そして文具にこだわるユーザーの間でも注目を集めているイベントです。

海外メーカーもアメリカ、ドイツ、ブラジル、スリランカなどが出展し、なかなか手にする機会がない海外の珍しい文具や、日本にはないデザイン性の高いスタイリッシュな文具などが展示され、国際色豊かな展示会となっています。



新製品を映像で紹介するメインステージ



連日、大盛況を博す展示場

ステーショナリー オブ ザ イヤー

期間中、その年に発表された新製品の中で、デザイン・機能・価格面において特に優れた製品を決める「ステーショナリー オブ ザ イヤー」の投票が行われます。

各社からエントリーされたヒット商品や新製品を対象に、会場を訪れた文具バイヤーや文具に詳しい有識者、業界紙の記者による投票で最優秀グランプリを決定します。

ぺんてるは、この賞を過去6回受賞、最近では2005年に「デコプチ」、2006年にゲルインキボールペン「エナージェル」と2年連続グランプリを受賞しました。



グランプリを拝受する堀江社長

2005年グランプリ受賞 デコプチ



先をつけて引くだけで、いろいろな楽しい絵柄がつけられるデコレーションテープ

2006年グランプリ受賞 エナージェル



濃くクッキリ、なめらかで軽いタッチの書き味。そして、筆跡の速乾性はトップクラス

コンプライアンス活動

企業・個人が社会活動（企業活動）を遂行するうえで遵守すべき行動規範として、創業以来の社訓に基づく企業行動指針を定め、全社員にその徹底を図っています。

企業倫理・コンプライアンス

グローバルな事業を展開するぺんてるでは、社会から尊敬され、愛される企業となるため、世界中の工場労働者の人権、労働環境、労働条件等について、その国や地域の法令・規則の遵守はもとより、正しい行動を実践するための「コンプライアンス・マニュアル」を作成しています。

社員への取り組み状況

コンプライアンス・マニュアルには、社員が遵守すべき事項が具体的に例示されており、社内電子掲示板にていつでも閲覧可能な体制となっています。また、コンプライアンスの啓発活動のため、教育ビデオやコンプライアンス担当者による定期的な教育を実施しています。

コンプライアンス・マニュアル遵守事項

1. 基本的人権と労働者の権利尊重
2. 適正な商取引の実施
3. 環境保全
4. 機密情報や個人情報の適切な管理
5. 適正な経理処理・税務申告
6. 利益相反行為等の禁止



東京支社でのコンプライアンス教育



関連会社におけるコンプライアンス教育

不正輸出の防止

当社の技術や貨物が平和目的以外に使用されないように、「輸出貿易の法令遵守に係わる社内規程」を定め、輸出部門での管理体制を整えているほか、定期的に社員教育と監査を実施し、法令遵守とリスク管理に努めています。

情報管理に向けた取り組み

個人情報を含む企業情報の流出・漏洩事故に備え、当社では個人情報保護といった法令遵守に関する社員教育の実施と、情報管理部署の入室管理や端末機器のパスワード管理を徹底するなど、お客様情報や社内機密に関する厳重な管理を行っています。

ぺんてるにおける個人情報保護ポリシー

ぺんてるは、個人情報の適切な取り扱いが当社の大変重要な社会的責務と考え、以下の取り組みを推進します。

1. 本人の同意のある場合、または法令で許容されている場合を除き、通知もしくは公表した利用目的、または取得の状況から明らかな利用目的にのみ個人情報を利用します。
2. 必要かつ適切な安全管理対策を講じることにより、個人データの漏洩、滅失または毀損の防止など個人データの安全管理に努めます。
3. 社員に対する教育啓蒙活動のほか、個人情報を取り扱う部門ごとに管理者を置き、個人情報の適切な安全管理に努めます。
4. あらかじめ本人の同意のある場合、または法令で許容されている場合を除き、第三者には個人情報を提供しません。
5. 保有個人情報の確認、訂正などを希望された場合は、合理的な範囲で対応します。



お客様満足度向上活動

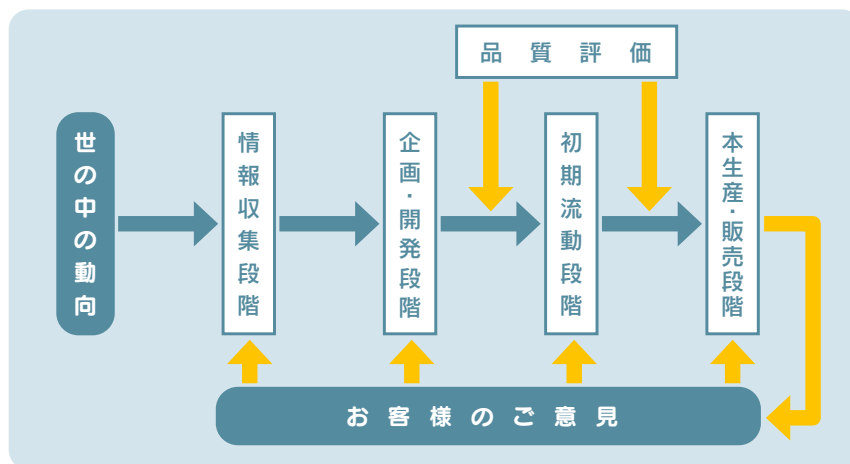
総合的品質管理活動の充実による「ぺんてるならではの品質」の実現と「製品安全性」の向上に取り組んでいます。

ぺんてるの総合的品質管理(TQM)活動

創業以来、品質管理を経営の大きな柱として活動し、1976年にはデミング賞^{※1}を文具業界初で、唯一受賞しました。その後も品質マネジメント活動を推進し、ISO9001^{※2}認証を国内の工場はもとより、海外の工場でも取得しています。

また、お客様相談室などにいただいたご意見などは品質の改善や新製品の開発に結び付けています。

● TQM活動の概要



製品安全性

最近、日本ではシュレッダー事故、海外ではRoHS指令^{※3}など、製品安全性に関する記事などが目につきます。当社では、企画・開発段階で徹底した製品安全性確保のため、JIS基準はもとより、CE基準やRoHS基準を超える品質設計を行っています。特に製品に含有される重金属に関しては、当社中央研究所で、企画・開発段階はもとより、市場上市後もICP発光分光分析によりその確認を実施しています。

最近では、フェノール(刺激臭が強く有害とされている)を含まず臭いのない「エフ水彩絵の具」の開発などは世界に先駆けた安全性対応であるといえます。



ICP発光分光分析機器による確認

ぺんてるならではの品質の実現

最近では、中国から安価であるが品質や製品安全性に問題がある製品が、日本はもとより世界中に回っています。当社では、それらの製品とはつきり差別化できる製品やサービスを通じて、「ぺんてるならではの品質」を実現し、お客様に快適に、安心してお使いいただける製品を提供していきます。



エフ水彩絵の具

● ISO9001 認証取得状況

1995年	茨城工場
	吉川工場
1998年	電子機器事業部
1999年	機設部
	アメリカ ロス工場
	台湾 台北工場
2000年	フランス パリ工場
2003年	中国 天津工場

※1 デミング賞

戦後の日本に統計的品質管理を普及させ、日本製品の品質を世界最高水準に押し上げる大きな礎となった故デミング博士の業績を記念して、1951年に創設された総合的品質管理に関する世界最高ランクの賞です。(財団法人 日本科学技術連盟ホームページより)



デミング賞メダル

※2 ISO9001

品質管理及び品質保証のためのISO(国際標準化機構)規格として1987年に制定されました。顧客満足の提供や改善活動を継続して実施することが求められており、社会的信用や競争力の向上が図られます。この品質マネジメントシステムの審査・認証は、第三者機関により行われます。

※3 RoHS指令

電子・電気機器における特定有害物質(鉛、水銀など6物質)の使用制限についての欧州連合(EU)による指令。

安全で働きやすい職場づくり

一人ひとりの社員の能力と意欲を引き出し、伸ばしていくよう取り組むとともに、すべての社員が心身ともに健康で安全に働ける職場の環境づくりに努めています。

QCサークルと改善提案活動

工場部門では、QC教育の実践の場としてQCサークルによる改善提案活動を推進しています。この活動の集大成ともいえる全日本選抜QCサークル大会で、**1979年・1989年・**

2002年・2005年には金賞を受賞しています(活動の詳細は、ぺんてるホームページ『月刊ぺんてる』の2006年1月号をご参照ください)。

「QCサークル」は、プロジェクトX!? ～現場レベルで品質改善をめざす～

「第35回全日本選抜QCサークル大会」(2005年)で、ぺんてる・ペン5課の“なすびサークル”が金賞を受賞しました。

この全日本選抜QCサークル大会に出場するサークルは、各サークルとも社内選考会、地区選考会、そして日本9エリアの地区予選を勝ち抜き、選抜された18サークルです。

今回の選抜大会に出場した主なサークルの出身企業は、当社のほかトヨタ自動車株式会社、日産自動車株式会社、マツダ株式会社、株式会社デンソー、シャープ株式会社、コニカミノルタエムジー株式会社、病院関係などでした。

2006年度は関東支部大会にて発表しました。残念ながら、全日本選抜出場は果たせませんでした。発表会の後はサークルメンバー全員が達成感に浸っておりました。そして、次年度への挑戦を心に誓い合っていました。



「QCサークル」とは

お客様に満足していただける製品やサービスを提供することを目的とし、第一線で働く社内の社員同士で小グループ(サークル)を作り、製品・サービス・業務内容の質の改善・向上を行うグループのことです。もちろん職場以外でも、飲み会、パーベキューやボウリング大会などを通じてコミュニケーションを深めていきますので、レクリエーション担当がいるサークルも珍しくありません。

QCサークルはより高い品質とサービスをめざす日本独自の発想から、1962年に日本で始まりました。今の日本の企業の力を支えているのは、現場で働くQCサークルのメンバー一人ひとりの力といっても過言ではありません。この活動は海外でも認められ、世界70数カ国の地域にも普及しています。

〈財団法人 日本科学技術連盟QCサークル綱領より〉

文部科学大臣表彰「創意工夫功労者賞」を受賞

「創意工夫功労者賞」は、工場などの現場で創意工夫に努力する勤労者を対象として、文部科学大臣が表彰する制度です。作業能率の向上、製品の品質向上、コストダウン、職域における技術的創意工夫などで、その貢献の実績が顕著なものが対象になります。

大橋係長は「輪島面相筆の考案」で受賞しました。輪島面相筆とは、輪島漆器蒔絵用面相筆のことで、最後の仕上げの際に、金粉で細い線を描くときに使用する筆です。この筆には、ぺんてる筆などの合成繊維筆の技術が活かされています。

また、渡部係長は「水性インキの考案」で受賞しました。このインキは、自社で考案した分散顔料による画期的なインキで、ハイブリッドインキなどにその技術が活かされています。



2006年4月受賞
茨城工場 ペン3課
渡部係長



2004年4月受賞
茨城工場 第3開発室
大橋係長

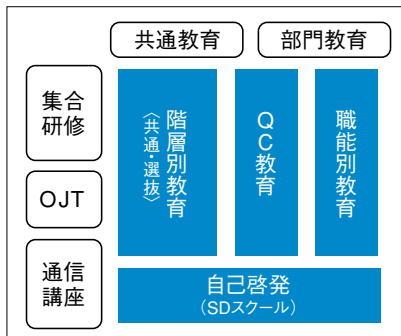
社員教育

社員教育は、階層別教育・職能別教育・QC教育・自己啓発を柱に実施しています。階層別教育では、新入社員から管理職まで年間スケジュールを立て、一貫した教育を実施しています。

2007年以降、団塊の世代の大量退職も考えられますの

で、2005年度は12月に2回、部次長を対象に1泊2日の集合研修を実施しました。開発、製造、販売、管理と各部門から参加した研修者たちは、グループに分かれた部門の管理職と全社的な経営課題について討議し、また全体発表の場でも活発に意見を交換しました。

●社員教育のしくみ



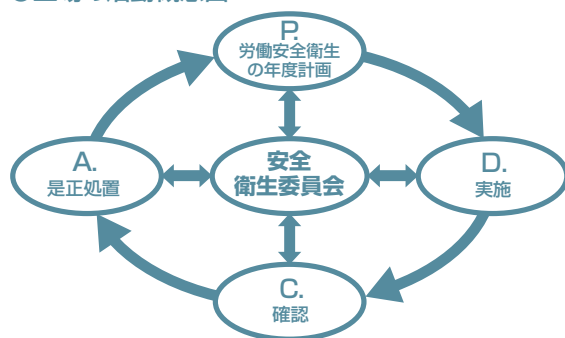
労働安全衛生

労働安全衛生に関して、特に機械などを扱う製造現場の取り組みを重点的に実施しています。

安全衛生委員会では毎月、その委員会による工場巡回を実施し、機械の異常、設備の状況を確認、問題のあるときには該当部署に是正勧告、対策の確認を実施しています。

また、定期的開催の労働安全工場巡回により、表のような結果になっています。今後もさらにこの活動を推進し、発生事故ゼロをめざします。

●工場の活動概念図



●労働災害発生状況(2005年度)

	総労働時間 (h)	発生事故(件)	
		休業災害	不休災害
茨城工場	572,256	0	2
草加工場	322,452	1	1
吉川工場	218,947	0	1

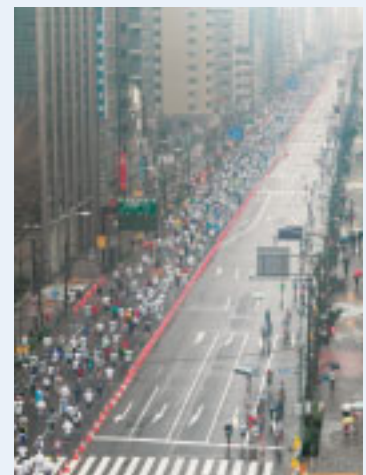
東京マラソンへの参加

2007年2月18日(日)、「べんてる走る会」のメンバーから32人が、東京マラソンにエントリーし、抽選の結果、フルマラソンに5人、10kmに8人が参加しました。当日は雨でしたが、参加した全員が完走しました。

本社ビル前は、フルマラソンのコースに設定されていたため、走る社員を「Pentel」の旗幟のもと会社をあげて応援しました。



スタート前の「べんてる走る会」メンバーたち



本社より写した新大橋通り。左側がこれから浅草に向かうランナーたち。右側が折り返し、銀座へ向かうランナーたち

環境マネジメント体制

環境保全活動をより効果的に推進するために、環境マネジメント体制を構築しています。環境マネジメントの活動も、PDCAサイクルを基本にグローバルな展開を行っています。

環境マネジメント

ぺんてるは1996年に環境綱領を制定し、翌年に環境管理・推進の組織を立ち上げました。主として環境への負荷が大きい工場サイトの活動を推進し、1998年に吉川工場、1999年に茨城工場、2000年には草加工場でISO14001を認証取得しました。2003年度には全社環境管理委員会を組織し、全社での取り組みをはじめました。

ぺんてるの環境マネジメントは、以下の項目を主体に全社的取り組みを実施しています。

1. 「ISO14001 マネジメントシステム」の確実な実行
2. 「TQM (総合的品質管理)」活動の一環として実施
3. 「QCサークル活動」(工場部門)での全員参加

環境綱領

〈基本理念〉

ぺんてる株式会社は地球社会のよき企業市民として、企業の社会的責任の重要性を認識し、地球環境保護と環境汚染防止を企業経営の重要な理念として、全社員の環境意識を高め、会社運営の全ての面で人と環境に調和した企業活動を推進します。

(備考)

環境に関する行動指針は上記の内容となっておりますが、企業の社会的責任を果たし、持続可能な企業構築のため、新たな「ぺんてる企業行動指針」を策定しました。

〈行動指針〉

1. 企業活動全般にわたり、設計開発から廃棄にいたる全ての段階において環境保全を考慮した製品とサービスを開発し、提供します。
2. 環境に関連する国内外の関連法及び協定、約束を遵守し、継続的な環境の保全と向上を図ります。
3. 海外事業展開に際しては、相手国の環境保全の確保に努めます。
4. 新規事業の計画に当たっては、継続的なアセスメントを実施し、環境保全に努めます。
5. 社員に対しては、環境保全に対する情報の提供と教育を行うとともに、顧客、行政、地域社会に対しても環境保全のために必要な情報を提供します。
6. この方針を全社員、全組織に周知徹底するとともに、環境保全に関する知識と技術の向上に努め、全社一丸となった環境管理活動を推進します。

各事業所への展開

環境マネジメントの活動もグローバル展開しています。

環境方針

【国内工場】	【海外工場】
草加工場 吉川工場 茨城工場	アメリカ 台湾

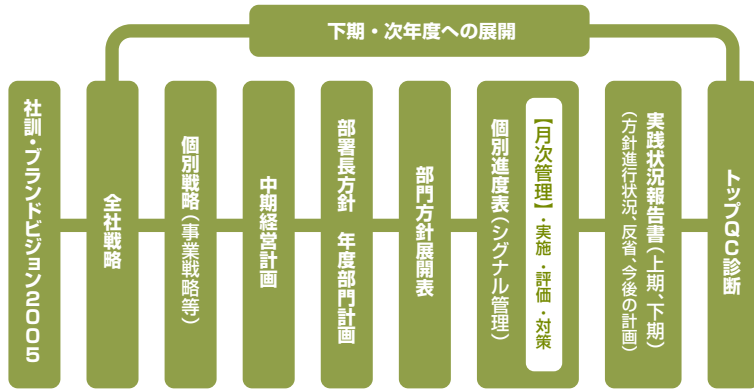
・ISO14001 認証取得状況

吉川工場	1998年
茨城工場	1999年
草加工場	2000年
アメリカ ロス工場	2001年
台湾 台北工場	2002年



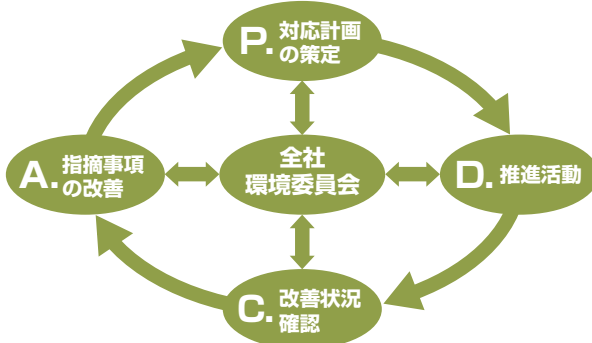
環境マネジメント展開の概念図

〈ペンてるにおける方針管理〉



年度末に行われる社長をはじめとする経営トップ陣によるQC診断では、Q(品質、品質管理活動ISO9001含む)、C(コスト)、D(納期)、及び環境保全活動(ISO14001)の取り組みについても、その内容について診断が行われ、問題部分に関してはその是正処置が指示されます。

〈環境マネジメントの推進組織〉



QCサークル活動

- 環境提案・ポスターコンクール
- 環境標語
- リサイクルバザー

QCサークル活動を通じて、社員一人ひとりが参加し改善する活動をボトムアップの形で実行しています。いわば活動全体に心を通わせていく形で推進しています。

TQM (総合的品質管理)

常にお客様第一の考え方に立って、世界最高品質水準の製品づくりを目標とし、品質保証のしくみや固有技術の向上・蓄積、人材育成までも含めてレベルアップを図っていく活動のことです。

品質保証に当たっては、製品の機能、性能、信頼性などへの配慮はもちろん、特に安全性や環境への十分な配慮も重視しています。

特徴のひとつとして、品質の考え方にお客様の満足度を取り入れています。さらに、企業のトップが制定した経営戦略をブレイクダウンし、品質目標、お客様満足度目標まで落とし込むことで、全社的に展開しています。

それらの一連の活動の成果として、1976年には、品質管理の最高栄誉であるデミング賞を受賞しています。また、国内外の工場において、ISO9001・14001認証の取得にも、積極的に取り組んでいます。

世界のペンてるの仲間とともに

2005年に世界中のペンてる社員に向けて「PENTEL BRAND VISION 2005」を配布しました。この中で、地球環境や環境汚染予防活動などにも取り組むことを「ペンてるの経営理念」として表明しています。

今後この理念実現のために、ISO14001認証取得などの活動を日本のみならずグローバルに展開します。



ペンてるブランドビジョン 2005

環境取り組み報告

環境保全と省資源への取り組みを、全社員参加のもと、グローバルネットワークを構成する海外販売会社や海外工場とも連携を深めて活動を推進しています。

活動計画と実績

[活動の内容]

活動方針1：ゼロエミッションを狙った廃棄物の削減とリサイクルの推進

活動項目	活動状況
廃棄物の分別収集	工場目標達成、本社、支社実施中
プラスチック廃棄物の高炉原料化リサイクル	達成率100%
生ゴミのコンポスト化处理	達成率100%
産業廃棄物のセメント原料化リサイクル	達成率100%
廃蛍光管のリサイクル化	達成率100%

活動方針2：省資源 / 省エネルギーの推進

活動項目	活動状況
消費電力の少ない製造設備の調達・切り替え	更新中
製造工程の見直し・効率化による消費電力の削減	消費電力 20 ページ参照
消灯運動・室内温度適正管理の推進	実施中
製造設備の冷却水の循環化による水の消費量削減	水の消費量 20 ページ参照
裏紙利用等による紙の使用量削減	達成率100%
クールビズへの参加（2006年夏）	ネクタイ着用なし（室温28度）

活動方針3：環境負荷低減関連法規への対応

活動項目	活動状況
容器包装リサイクルへの対応	対応実施
ドイツ グリューネプункトへの対応	達成率100%
EU EN 71-3 への適合	達成率100%
工場排気・排水浄化処理対策	達成率100%
化学物質の適正管理	PRTR 法への適正対応 RoHS 指令への適正対応
産業廃棄物のマニフェスト適正管理	達成率100%
騒音・臭気削減対策の実施	計画通り

活動方針4：環境にやさしい商品の開発

活動項目	活動状況
エコマーク、グリーン購入法、GPN 適合商品の開発	達成率100%
包装材の簡素化	実施中
再生材の利用推進	達成率100%
環境安全性の高い原材料の使用	塩ビの削減 達成率100%
製品環境アセスメントの推進	品質機能展開表に項目設定、DR時に確認実施

活動方針5：グリーン調達の推進

活動項目	活動状況
環境ラベル製品の購入推進	GPN データベースを参照し、実施中
印刷インキ（パンフレット類）の大豆油インキ化	実施中
再生紙への切り替え	達成率100%（デザイン用紙除く）
消費電力の少ない事務機器の調達	実施中

[グリーン調達]

工場においては、国内外の化学物質規制が強化されるなか、調達品のそれらへの適合性を評価し、基準適合品の調達を推進しています。また、オフィスでは右記のグリーン購入活動を推進しています。

●コピー紙：リサイクル紙使用率 95%
(デザイン用、POP用などの特殊用紙が5%)

●トイレトーパー：リサイクル紙 90%
●節電型電気機器の購入



〔環境パフォーマンス管理〕

下記の項目全体の改善が進んでいます。

今後、工場を移動するうえで、必要な電力や水道使用量の削減は、今のままのような内容では難しい局面にきています。

廃棄物の削減や廃棄物のリサイクル移行は順調に進んでおり、2005年度、草加工場及び茨城工場ではゼロエミッションを達成することができました。

項目	《草加工場》	《茨城工場》	《吉川工場》
電力使用料 (百万円)			
水道使用料 (百万円)			
リサイクル量 (トン)			
廃棄量 (トン)			
環境会計 (百万円)			
考察	2005年度ゼロエミッション達成。環境会計については、漏水対策、使用電力の再検討、成型機冷却水のリサイクル化などを推進しています。	2005年度ゼロエミッション達成。環境会計については、コンプレッサーの統合、ボイラーのガス化、記録類の電子化、冷却水のリサイクル化、漏水箇所の修繕、蛍光管のリース化、汚泥の減量、危険物取り扱いの集約化などを推進しています。	2005年度ゼロエミッションを達成できませんでした。環境会計については、冷却水の循環施設、蒸気配管の見直し・修理、省エネ型コンプレッサーの導入、替芯乾燥機の改善、歩留まりの向上などの生産技術の改善によりゼロエミッションをめざします。

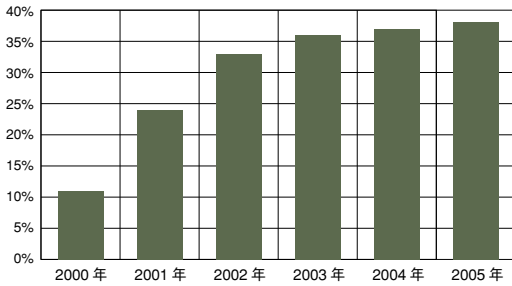
環境に配慮した商品開発

1991年より人と地球にやさしい環境配慮商品の開発に着手しました。現在では、環境への負荷が少ない商品が、国内売り上げの約50%を占めています。

商品開発の方針

ペンでは、リサイクル素材を使った商品や、製品本体を捨てずに再利用し、長く使用できるようにした商品、さらに有害物質を使わず、CE基準に合致した商品を開発しています。

●エコマーク商品比率



●商品開発の概念図



エコロジー商品

当社では、再生素材を使用するのはもちろん、環境に負荷を与えないさまざまな工夫を商品に盛り込んでいます。商品の詳細については、当社ホームページをご覧ください。

製品名：エフ水彩

フェノールを含まず
臭いがない



製品名：ホワイトボードマーカー ノックル

大容量インキ



製品名：.eシャープ、ローリーシャープ

残り芯が少ない



製品名：多色ボールペン ローリー

軸が細く軽い



製品名：油性マーカー ハンディ・エス

カートリッジ式 +
ノック式



製品名：蛍光マーカー ハンディライン・エス

カートリッジ式 +
ノック式 + 細軸



製品名：ノック式修正ボールペン パワコレ

カートリッジ式 +
ノック式 +
振る必要がない





リサイクルからリデュース・リユースへ

当社では、エコマーク^{※1}やグリーン購入法の基準に基づき、リサイクル素材を使った商品を開発・生産販売しています。また、同時にリデュース・リユースの視点に立った活動を推進しています。

ペイントマーカ-のリデュース・リユースへの取り組み

1 リデュース

分別廃棄の徹底や分別が不要な商品の開発で、廃棄物を減らす

自動車部品などのマーキングに使われているペイントマーカ-は、従来、本体にアルミ、攪拌体に鋼鉄ボール、その他に樹脂の複合素材を使用していました。そのため、廃棄品の分別を行うT社では、素材ごとに分解する作業を効率化する必要がありました。ぺんてるでは、軸本体の分解工具を考案し、採用となりました。

次に、分解作業自体を省くため、分解せずにそのまま廃棄できるような「樹脂部品だけのペイントマーカ-」を開発しました。開発にあたっては、「エコマーク認定基準をクリアする」、「RoHS指令^{※2}の基準をクリアしたインキを使用する」、「インキに含まれる有機溶剤による劣化を防ぐ」という3つの課題に同時に取り組み、「有機溶剤に劣化しない材料は金属だけ」という常識を打ち破りました。

2 リユース

廃棄物として捨てずに、再利用する

現在は、ペンを使い終えて、インキのなくなった本体を回収し、再度インキを補充して再利用する取り組みをT社と共同で実施し、さらなる技術力アップを図っています。



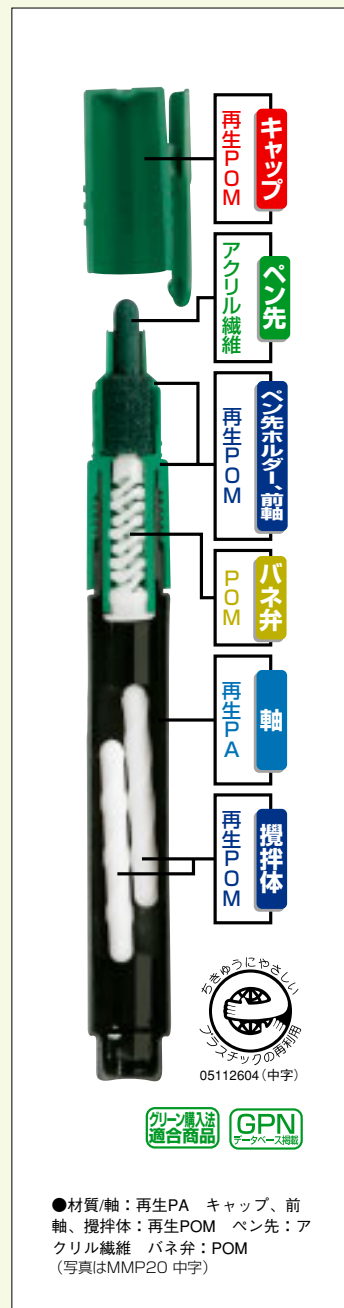
回収されたペイントマーカ-



インキの再充填作業

ペイントマーカ-の特徴

金属部品を使っていない油性ペイントマーカ-。プラスチックゴミとして廃棄することができます。



※1 エコマーク

環境省と日本環境協会が協力して、環境負荷の低い製品を推奨することを目的とし、環境によりよいと認定された商品につけられるマーク。

※2 RoHS指令

電子・電気機器における特定有害物質（鉛、水銀など6物質）の使用制限についての欧州連



RECYCOLOGY (リサイコロジー) 商品

従来のYes (YELL for ECOLOGY STATIONERY) 商品に替わって、全世界に向けて発信される、環境への負荷の少ないぺんてるのエコロジー商品。その商品に表示されるマークがRECYCOLOGYマークです。順次、Yes商品から切り替えていきます。

国内外のエコファクトリーへの取り組み

日本国内の3工場、海外の2工場でISO14001を取得し、各工場において、独自の環境保全活動や省資源への取り組みを行っています。

吉川工場の環境対応について

吉川工場は埼玉県東部の吉川市にあり、脇には中川が流れるのどかな田園地帯に位置しています。この環境のよさをしっかり受け止め、環境保全と廃棄物などの削減に工場一丸となって取り組んでいます。

●ISO14001の取り組み

吉川工場は、1998年7月ぺんてるで最初にISO14001認証を財団法人 日本科学技術連盟(日科技連)より取得しました。この時期、日本はまだISO14001の導入期であり、審査機関である日科技連も、財団法人 日本適合性認定協会(JAB)^{※1}の審査機関認定を受ける段階でした。そのため吉川工場は「JABが日科技連を審査する」と「日科技連が吉川工場を審査する」という厳しい審査を受けることとなりました。

活動も8年以上たち、毎年の各種削減計画も、初期の何で

また、廃棄食材の有効活用[※]などにも積極的に取り組む、当社を代表するエコファクトリーです。

※ 詳しくは11ページ「もったいない=MOTTAINAI」をご覧ください。



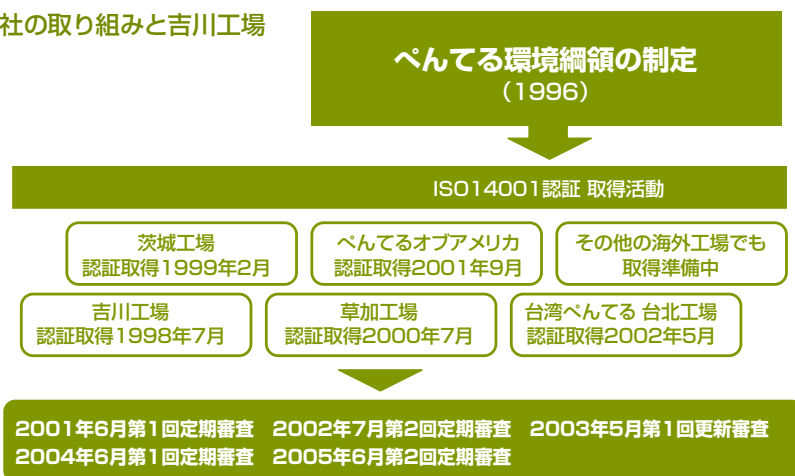
ISO14001の定期審査における、現場審査

もやればできた時期から、工場だけに視点をおくのではなく、社会的責任を盛り込んだ活動にシフトする時期にさしかかってきています。

●2006年度～2008年度 環境目的・目標

主な環境保全活動事項	活動目的(中期計画)	目標		
		2006年度	2007年度	2008年度
省エネルギー、省資源の推進	消費電力の5%削減(2004年比)	1.0%	2.0%	5.0%
廃棄物の削減とリサイクルの推進	廃棄物80%の削減(1996年比)	78.0%	79.0%	80.0%
環境汚染物質の削減及び適正管理	排気処理装置からの臭気の改善	計画通り	計画通り	計画通り
	MEKの使用量22%削減(2003年比)	20.0%	21.0%	22.0%
環境負荷の低減に配慮した商品群の拡充	エコ製品の開発改良件数45件以上(2000年からの累計)	43件以上	44件以上	45件以上
工場周辺の環境改善の実施	工場周辺の環境改善の実施	計画通り	計画通り	計画通り
関連協力企業への指導・支援の実施	指導・支援の実施	計画通り	計画通り	計画通り

●全社の取り組みと吉川工場



吉川工場独自の取り組み



社員の不用品を持ち寄って行われる「リサイクルバザー」



リサイクル活動の進め方を社員がポスターにし、周知する「環境ポスターコンクール」

※1 財団法人 日本適合性認定協会(JAB)

ISO9000やISO14000など適合性評価制度全般に関わる日本唯一の認定機関



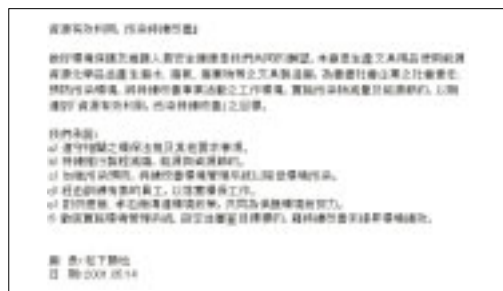
台湾ぺんてるの環境対応について

アジア統括本部がおかれる台湾ぺんてるは、1968年に現地法人 生産・販売会社 飛龍文具股份有限公司として設立され、今年で設立39年になります。アジア地域のみならず世界のお客様ニーズに対応する最適地生産拠点として、さらに近年、伸張著しいアジア地域の販売戦略の要となる機能をもっています。

台北工場は、設立当初は絵の具やパスなどの画材類を生産していましたが、現在ではボールペン、水性ペン、シャープペンシル及び消しゴムなどを生産する総合文具工場に発展してきました。台湾でも、リサイクルマークの表示や、特定文具表示が義務付けられており、それらに対応した活動も実施しています。

●ISO14001の取り組み

台湾ぺんてる台北工場は、2002年5月にISO14001の認証を取得しました。現在、ISO14001を軸に、環境保全の推進や環境システムの遵守に工場全体で取り組んでいます。



●台湾ぺんてるの環境方針（左）
●台湾ぺんてるのISO14001証書（右）



台北工場独自の取り組み



管理職による工場全体の巡回・改善指導



不透明水彩絵の具の台湾版リサイクルマーク



ポスターカラーに用途、使用方法、主成分、注意事項、有効期限などを表示



目に付きやすい玄関ホールに設置された、ISO14001認証取得活動の掲示板



ISO14001の計画に従って行った工場内緑化

世界の文具をリードするぺんてる

世界で初めて開発に成功した「ハイポリマー芯」や「ぺんてる鉛筆（ノック式シャープペンシル）」などの新製品開発で、世界の文具をリードしています。

ハイポリマー芯

世の中が高度成長期に本格的に入る1960年、ぺんてるは世界で初めて、バインダーにそれまで主流だった粘土の代わりに樹脂を使い、今までの替芯の1.5倍の強度をもったシャープペンシル用替芯「ハイポリマー芯0.9mm」を世に送り出しました。

この驚異的な強度をもった替芯は、研究者たちの細かい洞察力から生まれました。ストーブにのせたおにぎりが黒くこげ、強くこびり付いたことをヒントに、炭化する樹脂を粘土の代わりに用いることでハイポリマー芯は完成されました。さらにハイポリマー芯は、強度だけではなく、なめらかな書き味を出すために高温の油に浸すことで、替芯の中にできた気孔をなくしました。これにより、強く、濃く、なめらかな書き味のシャープ用芯が完成しました。この画期的な替芯は世界各国で特許を取得し、ぺんてる替芯の品質の高さを証明しました。

1962年には、現在主流の0.7mm、0.5mm、1968年には0.3mmが製品化され、1970年には世界最極細の0.2mmを開発し、業界をリードしてきました。

1999年に発売された「Ain」は発売当時との比較で約3倍の強度をもったものに進化しています。替芯中の気孔(穴)の大きさを細かく均一に分散するようコントロールし、炭化物の性質を変えることにより、強さのみならず濃くかつなめらかな芯を作り出すことに成功しました。

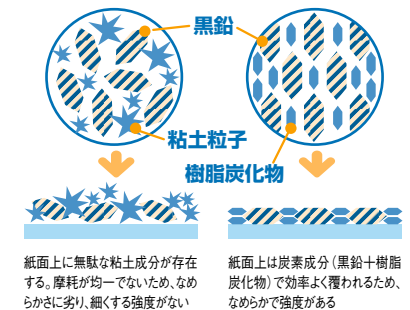


1962年に発売された世界初の0.5mmハイポリマー芯



ハイポリマーアイン。ダイレクト補充が可能。再生材使用率80%

●従来粘土芯と樹脂芯の構造概念図



ぺんてる鉛筆（ノック式シャープペンシル）

現在、ほとんどのシャープペンシルは後端ノックを押すと芯が出てくるノック式ですが、ぺんてるがノック式の「ぺんてる鉛筆」を開発するまでは、回転繰り出し式で1mm以上の替芯を使用するシャープペンシルが主流でした。粘土をバインダーに使った替芯は柔らかく、細くすると強度がなくなってしまうため、ノック式の実用化が困難だったのです。樹脂を使ったハイポリマー芯の完成が、ノック式シャープペンシルでそれまで実現できなかった0.9mmという芯径を成功させました。



1960年に発売されたぺんてるの鉛筆とハイポリマー芯。透明パッケージに取扱説明書を付けて発売された



eシャープ。芯が無駄なく使える経済設計。再生材使用率72%

オフィスの定番商品もぺんてるが開発したものです。

1963年 ペんてるサインペン

ジョンソン大統領が気に入ったことから、ニューズウィーク誌に掲載され、爆発的な人気となりました。1965年には、ジェミニ6号と7号に乗って、宇宙でも活躍しました。



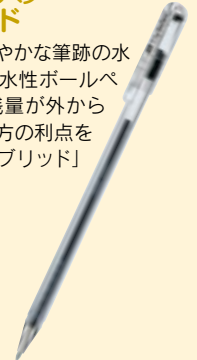
1983年 ペんてる修正液

従来のハケ式に替わり、世界で初めて開発されたペンタッチ式の修正液。ペン先を押すだけで、ワンタッチで修正できる便利な機構は、またたく間に全世界へ広がりました。



1989年 ゲルインキボールペン ハイブリッド

軽くなめらかな書き味で鮮やかな筆跡の水溶性ゲルインキボールペン。水性ボールペンの軽い書き味とインキ残量が外から見える油性ボールペンの両方の利点を併せ持つことから、「ハイブリッド」と命名されました。



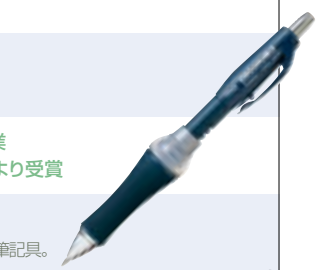
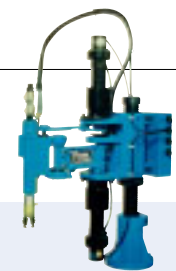
ぺんてるの歴史と社会・環境活動のあゆみ

創業時より一貫して、世の中になく新製品を作り、新しい需要を引き出し、市場を大きくすることを続けてきました。今後もこのポリシーをもって、新製品開発に力を注いでいきます。

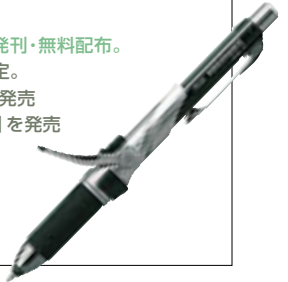
<p>1946年 (昭和21年)</p>	<p>▶大日本文具株式会社創立 「新しい日本を創るのにもっとも必要なのは教育である」との理念に基づき、クレヨン、絵の具などの学用品の製造販売をはじめた。</p>	<p>1983年 (昭和58年)</p>	<p>▶PUHAの発売 小型精密組立ロボット(PUHA)を開発、発売。FA部門に参入。 ▶ぺんてる修正液の発売</p>
<p>1952年 (昭和27年)</p>	<p>▶草加工場(絵の具、クレヨン・パス)、日本工業規格(JIS)認定工場に指定される。業界初のJIS制度導入。QC(品質管理)の開始。</p>	<p>1989年 (平成元年)</p>	<p>▶ゲルインキボールペンハイブリッドの発売</p>
<p>1960年 (昭和35年)</p>	<p>▶木を使用しない世界初のノック式シャープペンシル ▶強くなめらかに書ける、粘土をバインダーとしないハイポリマー芯 ▶技術研究所設立 ▶ノック式シャープペンシル(0.9mm)の発売</p>	<p>1990年 (平成2年)</p>	<p>▶本社ビル完成</p>
<p>1962年 (昭和37年)</p>	<p>▶ハイポリマー芯(0.5mm)の発売</p>	<p>1991年 (平成3年)</p>	<p>▶ぺんてるペンなど人と地球に優しい商品の開発開始 ▶ぺんてるリサイクルマークの作成・表示</p>
<p>1963年 (昭和38年)</p>	<p>▶ぺんてるサインペンの発売</p>	<p>1992年 (平成4年)</p>	<p>▶世界自然保護基金(WWF)に協賛開始</p>
<p>1964年 (昭和39年)</p>	<p>▶近代設備を誇る茨城工場建設 ▶世界各地に海外販社設立(香港、シカゴ、パリ、ロンドン、ぺんてるオブアメリカ)</p>	<p>1995年 (平成7年)</p>	<p>▶オゾン層破壊物質の全廃(製品) ▶ISO9001取得(茨城工場・吉川工場)</p>
<p>1966年 (昭和41年)</p>	<p>▶輸出貢献により内閣総理大臣賞を受賞</p>	<p>1996年 (平成8年)</p>	<p>▶創立50周年</p>
<p>1967年 (昭和42年)</p>	<p>▶カートリッジを使用した水性ボールペン</p>	<p>1997年 (平成9年)</p>	<p>▶茨城工場 地球に優しい企業(緑化部門)茨城県より受賞</p>
<p>1970年 (昭和45年)</p>	<p>▶大阪万国博に国際児童画館を出展・参加 ▶第1回世界児童画展に協賛以降、毎年協賛し、2006年で36回目の開催。</p>	<p>1998年 (平成10年)</p>	<p>▶ISO14001取得(吉川工場)</p>
<p>1971年 (昭和46年)</p>	<p>▶ぺんてる株式会社に社名変更 ▶連続8年輸出貢献企業認定を受ける</p>	<p>2000年 (平成12年)</p>	<p>▶エフ水彩絵の具ポリチューブエコマーク認定取得</p>
<p>1972年 (昭和47年)</p>	<p>▶水性ボールペンの発売 樹脂チップと水性インキでなめらかな書き味のボールPentel。</p>	<p>2001年 (平成13年)</p>	<p>▶茨城工場 地球に優しい企業(環境管理監査部門)茨城県より受賞</p>
<p>1974年 (昭和49年)</p>	<p>▶茨城工場排水処理施設北関東地区モデル工場 ▶茨城県緑化コンクール最優秀工場</p>	<p>2002年 (平成14年)</p>	<p>▶エルゴノミックスの発売 人間工学に基づく第4の支点をもつ筆記具。</p>
<p>1975年 (昭和50年)</p>	<p>▶在庫管理機の発売 電子機器部門に本格参入。</p>	<p>2004年 (平成16年)</p>	<p>▶エアペンの発売 筆記具と電子の融合。</p>
<p>1976年 (昭和51年)</p>	<p>▶穂先に動物毛を使用しない(ナイロンを使用)ぺんてる筆 ▶デミング賞受賞 業界初のJIS制度導入にはじまる徹底した品質管理活動で、文具業界初で唯一となる受賞。それ以降、後にISO9001品質システム及び、ISO14001環境マネジメントシステム認証を取得。</p>	<p>2005年 (平成17年)</p>	<p>▶新たなコーポレートメッセージ「Spirit of Wonder」を発信。 ▶創立60周年</p>
<p>▶ぺんてるのあゆみ</p>	<p>▶環境を意識した新製品の開発</p>	<p>▶自然保護への対応</p>	<p>▶環境教育プログラム 「ホッキョクグマが泣いている...」を発刊・無料配布。 ▶「世界一長い絵」がギネスに正式認定。 ▶エルゴノミックス ウィンググリップを発売 ▶極細ゲルインキボールペン「Slicci」を発売</p>



ぺんてるの名前の由来となったパス



コーポレートメッセージ





第36回世界児童画展 外務大臣賞受賞作品 “春が来た” 10歳 女 ポーランド

ぺんてる株式会社 〒103-8538 東京都中央区日本橋小網町7-2 <http://www.pentel.co.jp/>
TEL 03 (3667) 3333 (代表)

お問合せ窓口：社会環境報告書編集委員会 事務局 TEL 03 (5695) 7292



本報告書はFSC森林認証指定紙を使用し、VOC成分ゼロの大豆油インキで印刷しています。

